



# ぶらりらいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

## No. 205

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。  
書名の後の（ ）の数字は請求記号です。

問) ジョン・ダワーの本を読みたくて検索してみたが見当たらなかった。

答)  →  →  で検索すると、  
「該当する資料がありません」というメッセージが表示されます。

ほとんどの図書館の蔵書データは「日本目録規則」に基づいて作成されており、日本人の名前と同じ「姓」「名」の順番に入れ替えて入力されています。

そのため、外国人著者名を検索するときは、例えば「ジョン・ダワー」ではなく、間にスペースを入れて「ジョン ダワー」で検索するようにしましょう。間にスペースを入れると、「ジョン」と「ダワー」の両方を含む著者名を検索します。

→  →

該当する著者名が表示されます。



「ダワー ジョン (Dower, John W)」を選択すると『敗北を抱きしめて 第二次大戦後の日本人』など、6件がヒットしました。

著者名からではなく全資料で検索するときも「ジョン ダワー」で検索すると、著者情報だけでなく、目次情報まで検索しますので、ジョン・ダワーについて書かれた資料も探すことができます。

→  → 13件 (図書11件、雑誌2件)

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。  
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。  
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。



## 演芸界の母「吉本せい」と戦中の吉本興業



今年度下半期のNHK朝ドラ「わろてんか」が始まりました。主人公の藤岡てんは、吉本興業の創業者のひとり、吉本せい（1889-1950）がモデルになっています。

せいは、明治22年（1889）12月5日兵庫県明石市の林豊次郎・ちよの家に生まれました（10歳の時に大阪の北区天神橋筋に引っ越し、米穀商を営む）。勉強が好きだったせいですが、尋常科4年（今の小学4年）卒業後は女中奉公に出され、明治43年に吉本吉次郎（のちに吉兵衛、泰三と改名）と結婚しました。吉本家はもともと荒物問屋の老舗でしたが、日露戦争後に廃業し、落語好きの夫が落語興行に手を出して借金を作り失踪。2人の娘を抱えた彼女は、再び寄席の女中や裁縫の内職を始めました。

夫が戻った後の同45年には“第二文芸館”を買収し、夫婦2人で寄席の経営を始めました。大正2年（1913）には“吉本興業部”の看板を掲げ、次々と寄席を買収し、地盤を拡げていきました。13年に夫が亡くなりますが、その後も落語家や萬歳芸人の充実や、芸人たちで作った慰問団の満州派遣など、吉本興業はますます勢いをつけます。



せいは日本赤十字への寄付や愛国婦人会の活動、満州駐屯軍や養老院への慰問団派遣などといった、多岐にわたる社会奉仕や公共事業への貢献が評価され、昭和3年に紺綬褒章を受け、同9年には節婦として大阪府から表彰を受けました。当時の『婦人倶楽部』（第15巻第4号）には「涙を越えて栄ゆく吉本女興行王の奮闘物語」として彼女の生涯が紹介されています。



亡き夫を弔ふ菩提の数珠を握り締めつゝ、百鍊の鉄の意志と血涙の刻苦奮闘によって、僅か十余年の間に亡夫の負債三十万円を一厘残さず償却し、しかも今日一千数百人の従業員を統率して、全国の各地に事業網を張り、堂々数百万円の大屋台を、自ら切り廻してゐる女興行王吉本せい未亡人

亡き夫に代ったせい子未亡人は、此時から、吉本興行合名会社の代表社員——即ち女社長として、いよいよ第一線に乗り出し、まつしぐらの飛躍を始め、睡眠時間は平均四時間、忙しいときには三時間足らずといふ男子も及ばぬ活動です。

『男の出来る仕事が、婦人に出来ぬといふ道理は無い！』  
これが女史の信念でした。

終戦後、吉本興業は映画を中心に復興を進め、昭和23年に株式会社となります。せいは会長に就任しますが、2年後の3月14日に享年62歳で亡くなりました。



ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ NO. 205

2017年10月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1

